## チラバルマナビ場

# 酒井 なおみ

福屋粧子研究室

### 設計趣旨

1872年 日本で始めて「学制」が発 布され学校が始まった。

それから 100 年以上経ったいま「学 校」は体制・形態ともに変化し続け、 管理運営を中心とした均一なものか ら子供達の個性や生活を重視するよ うになった。

「学校は子供達が一日の大半を過ごす もの もっと生活に近い空間を」 しかし子供達の生活は学校という枠 に収まったままである。生活とは学 校という枠に収まるものではなく生 活の場「町」にちりばめられている のだ。

これは子供達の生活を町単位でとら え、その町独自の生活に合わせた子 供達の学び場を提案する。

## 宮城県の中央に位置する七ヶ浜町。



SITE

太平洋側に突き出た半島全体が町となっており海と山に囲まれ自然豊かな場所で、特に太平洋と松島湾に囲まれ た浜は一年を通して様々な旬の魚が採れる事で有名である。また 松島四大観の一つとして数えられている多聞山 や、県外だけでなく国外からも多くの人々が訪れるヨットの停泊所など観光を主とした産業も発達している。 その一方 多くの住人の仕事場が町外であるということ、義務教育以上の教育機関がない事からどうしても生活の ほとんどが町外となってしまいベットタウン化しているのが現状である。

そこで 町独自の要素をそれぞれ独立させるのではなく空間をシェアしていく事で、人の循環を生じさせるように

する。シェアする空間は「学ぶ場所」つまり学校で ある。学ぶという事は学校という独立した空間では なく、町に開けた場所行う事で一般教育のみならず 社会として生活に近い事を学ぶ事ができるのではな いだろうか。

学校としてのあり方を見直すと共に、これからの学 校と町の関係を提案する。





学校の要素を町にちりばめていく事で交わる事なくバラバラであった 人のも循環し交わっていく。

## SYSTEM DYAGLAM



町の要素はそれぞれで完結しているため交わる事 がない。

学校としての要素を四つに分解し町の要素とシェ アさせていく。



シェアしていく事でそれぞれを行き交う人が増え 町全体に循環が生まれる。

	Mon.	Tue.	Wed.	Thu.	Fri.
1			70	Ŏ	7
2	1	-	•		
3 ,	1	7	1		•
4	nn	1	7	Ŏ	4
5	~	Ŏ		-	1
6	•		min		7
7	•		1	4	
8	7	1	•		
9	•	nn	1	MA	70

4つの施設を2・2・2・3 学年毎に利用していく。 近い学年、遠い学年といった組み合わせをつくりつつ週ご とに各施設を回っていくシステムだ。

低学年ではその地域での学び場を多く利用し、高学年では 社会交流を中心とした授業を受けられるようになっていく。

### 小中一貫校

#### 総生徒数:

七ヶ浜町中央に位置する亦楽小学校と七ヶ浜中学 校を対象とする。東日本大震災にて七ヶ浜中学校 の校舎は使用不可となり現在は仮設校舎で授業を 行っている。今後の立て替えを機に中高一貫校 2 する事を待ちとして決定している。



北工業

2012年度 卒業研修 大

## MODEL DYAGLAM

### 01 漁業 + 理科 技術

漁師の作業場と休憩所を併設させた学び場。

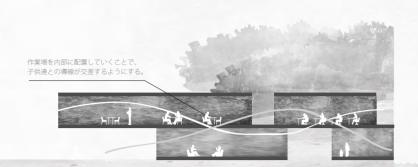
松島湾に面した東宮浜では漁業の手伝いや漁のための道具作成を

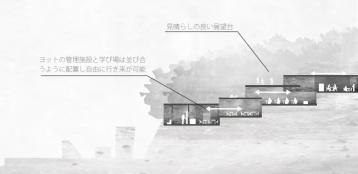
おこなう活動的な空間で、七ヶ浜の文化を学ぶことができる。

### 02 ヨット + 英語 社会

様々な人が出入りする場所で社会や英語を学ぶ。

町外だけでなく国外からも人が出入りするため文化交流を体験できる。学び場の中でも最も外との交流が盛んな場所でもある。





## 03 図書館 + 国語 数学 音楽 美術

図書館で繋がる学び場の拠点。

学び場、老人ホーム、児童センターを繋がる様に配置し、それらが 繋がる道を図書館とする。

それぞれの空間を繋げる道を図書スペースとして図書館を巡るよう な導線とし、落ち着いて学べるスペースをつくる。

### 04 農業 + 理科 家庭科

道路側の高さに合わせてつくる事で、視界を遮る事無く海が見えるようにする。3F2Fは学び場や地域解放の料理場を設け、1Fはピロティにすることで農作業場や休憩スペースとする。これらはヴォイドを設ける事で縦のつながりをもたせる。





